

分類	検 査 項 目	検 査 の 説 明
上部消化管	X 線	バリウム（造影剤）と発泡剤（胃を膨らませる薬）を飲み、X線で食道、胃、十二指腸の透視と撮影を行います。主にがんと腫瘍の検査を行っています。精密検査が必要と判定された場合には、医療機関で胃内視鏡検査などの精密検査を受けましょう。
	内視鏡	食道・胃・十二指腸を直接内視鏡で観察し、食道炎、胃・十二指腸潰瘍、食道癌、胃癌などの病気を見つけることができます。また検査中に医師が詳しい検査が必要と判断した際、生検・病理検査(組織を採る検査)を行う場合があります。
	ヘリコバクター ピロリ抗体	血液検査により、ヘリコバクターピロリ菌の感染を調べます。 萎縮性胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍など、炎症性疾患の多くは、ピロリ菌の感染が原因とされています。炎症性疾患が慢性化すると、胃がんが発生するリスクも上昇するため、除菌することが重要です。 ※2022年1月25日より基準値を変更しております。
	ペプシノゲン	ペプシノゲンは、胃の粘膜で生成される消化酵素です。血液中のペプシノゲンを測定し、胃粘膜の萎縮度を調べます。萎縮の進んだ粘膜から胃がんが発生することがあり、「陽性」の人は胃がんになりやすい状態です。定期的に検診を受けるようにしましょう。
		●ヘリコバクターピロリとペプシノゲン●  ピロリ菌って何？ ピロリ菌は胃粘膜に棲みつく、らせん形の細菌で、胃粘膜に悪さをします。乳幼児期に、井戸水やピロリ菌に感染している家族の唾液などから経口感染すると考えられています。  胃がんの原因 ◇ ピロリ菌(原因の 99%) ◇ 胃内の環境 ◇ 体質 ◇ 多量の塩分や野菜不足 ◇ 喫煙 など  ピロリ菌が要因の病気 ◆ 胃がん ◆ 慢性胃炎 ◆ 胃潰瘍 ◆ 十二指腸潰瘍 など  ペプシノゲン検査 ペプシノゲンは、ペプシン(消化液)のもととなる物質です。胃の粘膜萎縮が進むとペプシノゲンの分泌が低下します。 ※ヘリコバクター・ピロリ抗体検査やペプシノゲン検査は胃粘膜の状態を調べる検査で、胃がん(疑い)そのものの有無をみる検査ではありません。
大腸	便 潜 血	便の中の血液を調べ、大腸内の出血の有無を調べる検査です。大腸にがんやポリープなどがあると、出血が見られます。精度を上げるため、2日分を検査します。陽性と判定された人は必ず精密検査を受けましょう。大腸以外の消化管の潰瘍やポリープ、痔、鼻や歯ぐきからの出血でも陽性と判定される場合があります。
(肝胆臓腹部腎部等)	超 音 波	体の表面から、お腹の臓器に超音波をあてて、反射してくる情報をもとに臓器などを画像として観察する検査です。体に無害で、繰り返し何度も検査できますが、体脂肪や消化管ガスが多い場合などは、十分な観察ができない場合があります。